

# バターとマーガリンについて

食に関連する予防医学と豆知識

石油高騰が進む中、先日非常に気になるニュースを見かけました。横浜市と横須賀市が給食費が高騰するためにバターを中止し、マーガリンへ変換すると発表したというものです。私は以前にも何度も皆様にお伝えしておりますが、マーガリン、ショートニングなどに代表されるトランス脂肪はアメリカではすでに含有する食材の販売は規制されており、ドイツではすでにマーガリンは90年代から製造販売禁止となっているものなのです。お隣の韓国でも学校給食内でのトランス脂肪や食品添加物は法律で規制されており、違法した企業には罰則まで設けているものです。それが日本ではまたマーガリンへと戻るのでしょうか。非常に気になりますね。日本の正式見解ではアメリカのように個人の摂取量が多くなければ問題ないとの発想です。欧米では既にトランス脂肪は動脈硬化やの元凶とされ、悪玉脂肪と言われているものです。それが日本では食品の中にどれだけ含んでいるのかの表示義務すら無いのです。それでどのようにして国民に少量だと分かるのでしょうか。

前号でもお伝えいたしましたが、日本の食の安全基準は国際的に見て非常に低いと言われております。食品添加物の基準しかり、電磁波基準しかりです。EUの基準と比べてあまりにも緩すぎるのです。本来は国民を守るべき安全基準が他国と比べて低いというのは、国民を守るものとは思えません。

トランス脂肪にはLDLコレステロールを増やしHDLコレステロールを下げる働きがあり、動脈硬化の原因と欧米ではされているものです。日本では本年の4月より特定検診というものがスタートします。国の目玉戦略であり、メタボリックシンドロームの早期発見早期対処を促し、これが最終的に国民医療費を下げるというものです。その検診のために多くの予算を割くことが国としては大切なように思えます。国民の身体を作り上げる素材の大切さを考えているとは全く思えません。ヨーロッパは予防原則の国、つまり危ない可能性があるのなら科学的根拠の前に予防しようというもの。しかし日本にはこの原則がありません。危ない可能性があっても科学的に証明されなければ常に白として扱われているのです。過去もカネミ油、森永ミルクの安全問題も同様でした。薬害エイズやC型肝炎も同様です。この国は常に隠し続け、公になるとほとぼりが冷めるのを待つというスタンスで、この繰り返しなのです。我々はアスベストという大きな問題を経験したばかりなのです。世界では危険と言われ日本は安全で通して来たのです。結果はご存じのとおり。日本人は水に流すことが好きな人種のようなのですが、このアスベストの経験を水に流しては行けません。国が守ってくれないのであれば、自己防衛して行くしかありません。しかし給食は自己防衛しようも無いのが現実なのです。



医療法人 照燈会

**あかね台 眼科脳神経外科クリニック**

Akanedai Clinic of Ophthalmology and Neurosurgery